

編集後記

今でこそ多くの人がレ線或は内視鏡で早期癌はどのように表現されるかを知っており、定型的のものは術前に取てその診断を下し、ほとんど誤ることがない。最近の外国からの便りによると、日本では切除して病理標本も見ないうちに早期癌だという診断を下すことが不思議でならないらしい。きっとひそかに生検をやりそれをかくしているに違いないということである。ものまねでないほんものが日本で静かに深く進んでいくことを御存知なかったからという他はない。しかし安心は禁物である。われわれはときどき過去を振り返り、失敗は失敗として率直に認め、その失敗は二度と繰り返すまいという覚悟を持って、もっとはるか先に目標を置かねばならない。この意味で本号では特に各方面の大家に早期胃癌と誤り易い病変を中心として、現時点での振り返りの鑑別の要点を述べて頂くことにした。その内容を充分自分のものとされるばかりでなく、著者等の診断向上の為の今迄の苦勞も分って頂きたい。

また、座談会のテーマも同じような意味を持っており、検査に際しては1例1例を大切に扱うことが必要のことが教えられると思う。

名古屋での「胃と腸」の読者大会も盛会に終り、その際アンケートを寄せられた方々に深く感謝致します。「胃と腸」を更に皆の雑誌として内容を充実していくためににおおいに参考とさせていただきます。

< 芦 沢 真 六 >

<編集> 早期胃癌研究会

投稿規定

- 1) 原稿は楷書、平仮名、口語体(である式)で横書、簡潔明瞭、かつ正確に句読点をつけて原稿用紙に書くこと。同時に600字の和文抄録を添えて下さい。
- 2) 外国人名は原語(下線を引くこと)、薬品名はカタカナ(外国品名は原名)を用いること。又度量衡の単位はmm. cc. l. mg. g. kg 等と記すこと。
- 3) 総説は400字詰用紙20枚以内、図・表は20枚以内。症例は400字詰原稿用紙10枚以内、図表は10枚以内のこと。
- 4) 原色写真は、総説6枚、症例2枚を限度として掲載します。原色版を希望される図には、白黒写真とカラー写真をそえて下さい。
- 5) 文献は重要なもののみに止め、氏名はフルネームのこと。
- 6) 掲載の分には掲載誌1部及び別冊50部を無償進呈。有料別冊は50部単位でお申込み下さい。
- 7) 原稿は、東京都文京区本郷 5-29-11 医学書院「胃と腸」編集室宛お送り下さい。なお、採否、掲載の順序は編集委員会にて行ない、校正は著者校正を致します。

(担当) 石原・細田・香取